

令和3年度第2回広島県県営林管理経営評価委員会における委員の質問・意見（概要）

- 1 日 時 令和4年3月15日（火） 14時00分～16時30分
- 2 場 所 （WEB会議による開催）
- 3 議 案 第1号議案：令和4年度県営林年度実施計画について
第1号議案について審議の結果、令和4年度県営林年度実施計画については、
原案のとおり承認された。
- 4 委員からの主な質問・意見 （○質問 ●回答 ◎意見）

第1号議案：令和4年度県営林年度実施計画について

- 売上高について令和3年度の当初計画と同じ金額を令和4年度の当初計画にあげていますが、ウッドショックで木材価格が高止まりの状態で、売上高をもう少し高めに見積もることを検討されていないのか。
- 現在、ウッドショックの影響が続いて材価が高めの状態で推移していますが、来年度も引き続きこの価格で維持されるか見通しがつかないため、安全側を見て例年通りの単価で計上しています。
- （ウッドショックの影響を考慮して）主伐請負を立木販売に切り替えたということですが、令和3年度立木販売の実績の表では、必ずしも立木販売の単価が上がっていないように見受けられるが、販売価格との関係はどの様になっているのか。
- 主伐請負を立木販売に切り替えたことにより、入札による競争が働いたため、主伐請負で発注する予定で作成したプラン書での収益額に比べて、より多くの収益を上げることが出来ましたが、ウッドショックの影響による価格の上昇は見られませんでした。
- 去年6月位から材価が上がり、年末には下がってきたが、令和3年度に立木販売された6箇所の事業地において時期による販売単価の変化はなかったのか。
- 木材価格が高騰した時期に販売した二つの事業地は、木材の搬出に問題を抱えているため、販売単価が振るわず、年末に販売した2事業地については、条件が良かったため高額となり、販売単価の変化は、時期ではなく現場条件の影響が大きいと考えています。
また、契約による伐採期間が2～3年間と言うこともあり、直近の木材価格の変動は、販売単価に影響しなかったものと考えています。
- 全国的な傾向として、まだまだ原木は不足気味である中で、令和4年度の木材生産の計画を少し増やす考えはないのか。
- ウッドショックで木材価格が高騰すると、民間の林業事業体が自らの木材生産を優先するため、事業体の確保が課題となります。
そこで、新しい事業体に県営林事業に参入していただき、利用間伐であれば計画している280haを確保することで、県内全体の素材生産量の底上げを図っていきたいと考えています。
また、立木販売につきましては、計画どおりに販売して行くことで、民間の市場のニーズに対して対応していこうと考えています。

- 関連して、ウッドショックの機会を捉えた事業量の前倒しや、事業体の不足といった課題について、今後の見通しや考え方を教えて欲しい。
- 課題としては、事業地の確保と事業体の確保とが大きいと思います。
 - 事業地の確保については、土地所有者との協議に時間を要しますので、先行調査の更なる前倒しに力を入れていきたいと考えています。
 - 事業体の確保については、年間を通じた計画的・安定的な発注や、面積の大きな事業地を確保することで、受注者の方に効率的な施業が可能になるような発注を心掛けたいと思っています。